

平成17年度宮古群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

3月の気象予報

要素別予報

要 素	気 温	降 水 量	日 照 時 間
予 報	並 ~ 高	並	並

(平成18年2月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.7	22.5	17.4	132.2	109.1

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

3月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

1 さとうきび

黒穂病の防除対策について

- a 毎年3月中旬頃から主に株出し圃場において黒穂病が発生する。
- b 生育初期は発病株の識別が容易で、抜き取り作業もしやすいので早期防除に努める。
- c 胞子の飛散を避けるため、発病株は鞭状体の出現前に抜き取り処分する。
- d 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- e 苗の薬剤浸漬処理を行う。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策について

- a 1～5月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺用合成性フェロモントラップの設置・管理を徹底する。
- b トラップは風通しの良い圃場周縁部に設置する。
- c トラップ周辺の除草を行い、風通しをよくする。
- d 水盤トラップを用いる場合は、水および中性洗剤の補充を定期的に行う。

コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策について

- a 立枯れの見られた圃場では、収穫後速やかに耕耘し幼虫密度の低減を図る。
- b 平成17年度沖縄県病害虫発生予察技術情報第6号(平成17年12月27日付け)参照。

2 マンゴー

開花期の病害虫防除対策について

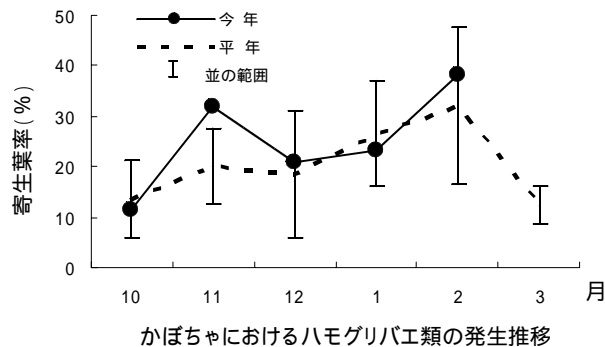
- a 開花期を迎えたこの時期は、花穂を中心に炭そ病、うどんこ病、チャノキイロアザミウマやチャノホコリダニなどの病害虫が発生する。
- b 病害虫の発生程度はまだ低いものの、今後、気温の上昇とともに増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。

3 かぼちゃ

(1)ハモグリバエ類

発生程度：並
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、寄生葉率は38.3%（前年7.3%、平年32.0%）と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- a ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるため、早期発見に留意する。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

モザイク病の防除対策について

- a 2月中旬の調査の結果、発病株率は24.4%（前年1.9%、一昨年0.7%）と高かった。
- b 一部圃場で50%を越える多発生が見られた。
- c 本病の媒介虫であるアブラムシ類の葉あたり虫数は6.3頭（昨年2.0頭、一昨年0.1頭）とやや多かった。
- d 気象予報では3月の気温は平年並か高くなる見込みで、本病の媒介虫であるアブラムシ類の増加に注意が必要である。
- e 平成17年度病害虫発生予察注意報第4号（平成18年1月31日付け）参照。